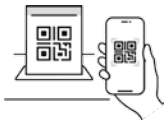
レイアウト変更・デジタル機器の活用などにより窓口手続きをわかりやすく便利に

本庁舎１階の窓口サービスが変わります

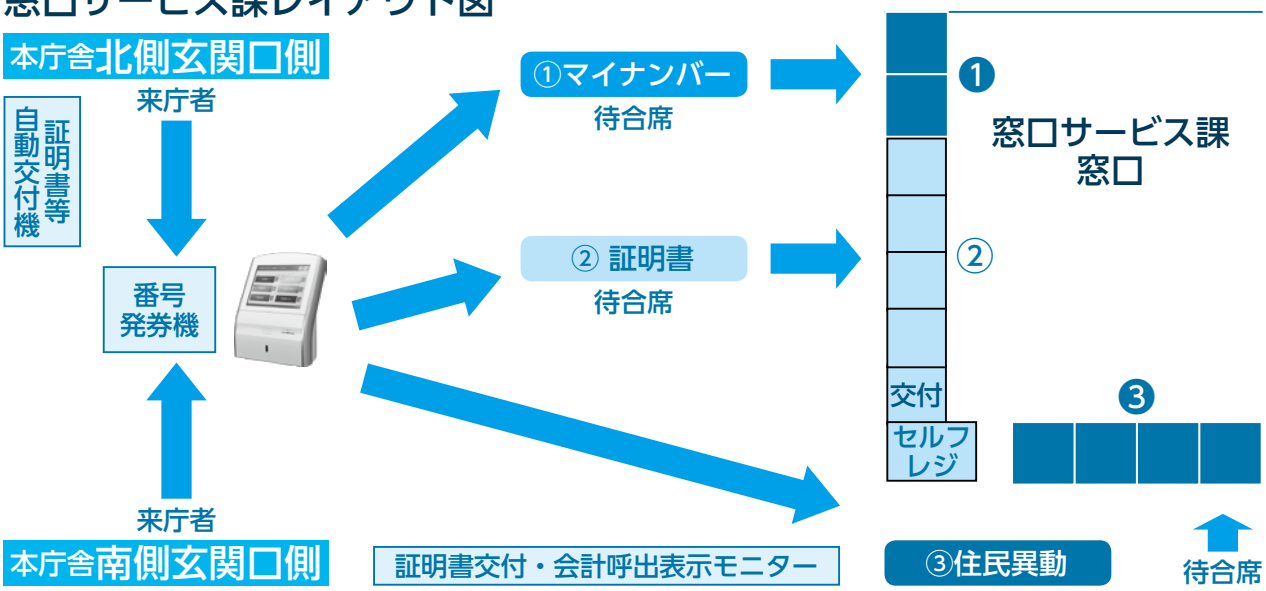
7月3日から

７月３日から、市民課を「窓口サービス課」と「国保・年金課」に分割します。「窓口サービス課」では、主に、戸籍・住民異動などの届出や証明、マイナンバーカードに関する業務を行います。これを機に、本庁１階のレイアウトおよびサービス導線を変更し、デジタル機器の活用などにより、証明書等の取得や転入・転居などの手続きをわかりやすく便利にします。

《問合せ》DX・行財政改革推進課☎21-9146

目的別の窓口に変更	窓口を①マイナンバーカード、②証明書の発行、③戸籍・住民異動の目的別に分けます。手続きに時間のかかる戸籍・住民異動窓口は、座って手続きができます。
番号発券機を設置	番号発券機を設置し、窓口ごとに番号票を発券します。呼出表示機に呼出番号が表示されるまで座ってお待ちください。
セルフレジを導入	証明書の交付・支払い窓口を１カ所に集約してセルフレジを導入します。現金はもちろん、キャッシュレス支払いも可能です。 
証明書等自動交付機を設置 ※８月14日設置予定	コンビニエンスストアに設置されている機器と同様の機器を設置します。マイナンバーカードを持っている方は、窓口で待つことなく証明書等の取得ができます。
フロアマネージャーを配置	フロアマネージャーを窓口付近に配置し、窓口案内や番号発券機使用の補助など来庁者のサポートを行います。わからないことがあったら、おたずねください。
マイナンバーカードを活用し手続き書類に印字	手書きの手間を省くため、マイナンバーカードを活用し、転入・転居などに関連する手続き書類に、住所・氏名等を印字して渡します。

窓口サービス課レイアウト図



Uemura Naomi Memorial Museum

「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会
野村良太さん「北海道分水嶺積雪期単独縦断」

諦めず、やりたいことをやり続ける

6月3日、日高文化体育館で27回目となる2022「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会を開催しました。前人未到の北海道分水嶺積雪期単独縦断を達成した野村良太（のむらりょうた）さんを招き、メダルや副賞を贈呈しました。国内での冒険で冒険賞を受賞するのは初めてです。野村さんは授賞式に続いて行われた記念講演会で、約600人の来場者に向けて、冒険のことや当時の心の変化などを語りました。失敗も自分の弱さも全てオープンにする野村さんの言葉に、来場者は引き込まれていました。

《問合せ》日高振興局地域振興課☎21-9056

植村さんの謙虚さ、学びの姿勢を目標に

まずは植村直己さんへの思いについて「リアルタイムでは知らない世代なので、歴史上の人物、社会の授業で習うようなすごい人だというイメージです。植村さんの謙虚さや学びの姿勢をやめないところが素晴らしいところで、自分もそういう人間になれるようにがんばりたいと思います」と語った野村さん。

また、冒険賞を受賞すること、受賞者の務めについては「諦めないこと、やりたいと思ったことは何回でもやること、失敗してもなぜ失敗したのか、どうしたら次はできるのか考えながらやることがとても大切なことだと思いました」と決意を述べていました。

メダルや目録を受取り、笑顔で関貫市長と記念撮影を行う野村さん

自分の弱さを自覚し、やりたいことに真摯に取り組む

冒険中、野村さんはずっと単独行について考えていました。「単独行でしか味わえないシンプルさと奥深さ、自分と向き合う時間の長さが魅力。しかし、自分の弱さを無視するわけにはいかない。単独とは、1人で山に行くということはどういうことか。誰の支えもサポートも受けないというのは本当はどういうことなんだろうか」

結果として、食料の不足や装備の故障のため、途中で仲間からの補給を受けました。

「大事なことは、助けを求めたときに支えてくれる仲間がいること。そのありがたさを感じたことでした」との結論に、野村さんは至りました。

好奇心と体力と運

「大人になってから目標を達成するために、中学生の時にやっておいたほうがいいことはありますか」地元中学生からのこの質問に、野村さんはこう答えました。

「最近何かで読んだ話ですが、何かを成し遂げる人には必ず三つ備わっているものがあります。好奇心と、その好奇心に対してやり続ける体力、最後に運です。中学生なら、好奇心が赴くままにとにかく何かに手を出し、何か理由をつけて諦めないで、やりたいと思ったことを、とにかくやり続ける。そのための体力を身につけていれば、やりたいことができたときにがむしゃらにできるのではないかなと思います」

冒険のその後

この挑戦から1年半近くが経ち、野村さんは、次のやりたいことに挑戦しています。

「世界の大きい山に行ってみたい」そう思ったときに声をかけられ、ヒマラヤ遠征に参加しました。しかし、残念ながら登頂は叶いませんでした。

「このまま次の挑戦をしなければ、今回の遠征は失敗になってしまう。今回の失敗の経験を生かし、いずれ成功すれば、失敗は失敗ではなくなります」

好奇心を持ち続け、やりたいことに真摯（しんし）に向き合う野村さんの挑戦は、これからも続きます。

講演会終了後、中学生からたくさんの質問が寄せられました

授賞式・講演会の動画を視聴（YouTube）